



平成27年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年8月12日

上場会社名 株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所 上場取引所 東
 コード番号 4576 URL http://www.dwti.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日高 有一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務管理部長 (氏名) 川上 哲也 TEL 052-218-8785
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト、機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 平成27年12月期第2四半期の業績（平成27年1月1日～平成27年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第2四半期	27	—	△154	—	△153	—	△154	—
26年12月期第2四半期	—	—	△141	—	△139	—	△140	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第2四半期	△6.78	—
26年12月期第2四半期	△6.18	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第2四半期	1,983	1,965	98.9
26年12月期	2,135	2,116	99.1

（参考）自己資本 27年12月期第2四半期 1,961百万円 26年12月期 2,116百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年12月期の業績予想（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50 ～80	—	△249 ～△219	—	△246 ～△216	—	△247 ～△217	—	△10.88 ～△9.56

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期2Q	22,783,400株	26年12月期	22,768,400株
② 期末自己株式数	27年12月期2Q	－株	26年12月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年12月期2Q	22,779,007株	26年12月期2Q	22,727,416株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料は、T D n e t で同日開示を予定しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における国内経済は、原油安や円安の影響を背景に、企業収益の改善や設備投資の持ち直しが見られました。また、個人消費につきましても雇用・所得環境の改善が続き、総じて緩やかな回復傾向で推移いたしました。

国内医薬品業界におきましては、医薬品需要は増加傾向にあるものの、国の医療費抑制政策により後発医薬品が拡充し、長期収載品が落ち込むなど、厳しい事業環境が継続しております。

このような状況の下、当社は新薬の継続的な創出とパイプラインの拡充を目指し、研究開発活動を推進いたしました。

ライセンスアウト済パイプラインにつきましては、ライセンスアウト先の興和株式会社により、「グラナテック*点眼液0.4%（一般名：リパスジル塩酸塩水和物、開発コード：K-115）（以下、「グラナテック」）」が緑内障・高眼圧症を適応症として、平成26年12月より国内上市されております。また、抗血小板剤「K-134」につきましては、平成26年12月に国内後期第Ⅱ相臨床試験が終了しましたが、有効性の主要評価項目を達成できませんでした。本試験の結果及びこれまで得られた知見を総合的に検討した結果、閉塞性動脈硬化症を適応症とした日本及び米国の開発中止を決定したとの連絡を受けました。閉塞性動脈硬化症以外の適応症への応用につきましては、興和株式会社にて検討されています。さらに、ライセンスアウト先のみかもと製薬株式会社により、緑内障治療剤「H-1129（WP-1303）」の非臨床試験が実施されました。

新規開発品につきましては、「H-1129バックアップ化合物（開発コード：H-1337）（以下、「H-1337」）」の化合物最適化を完了しており、メカニズムの解明と非臨床試験に向けた準備を進めております。シグナル伝達阻害剤開発プロジェクトにつきましては、眼科関連疾患を中心に新薬候補化合物の探索のための研究開発活動を行いました。

また、眼科用鎮痛剤の導入につきまして、日本における再実施許諾権付独占の開発権・製造権・販売権を取得するライセンス契約を6月2日に英国企業と締結いたしました。

売上高につきましては、「グラナテック」のロイヤリティ収入等27百万円を計上しました。なお、「グラナテック」の国内販売状況は順調に推移しております。

利益面につきましては、研究開発費が80百万円（前年同期比70.6%増）、その他販売費及び一般管理費が101百万円（前年同期比6.9%増）であったことにより、販売費及び一般管理費は181百万円（前年同期比28.1%増）となりました。その結果、営業損失は154百万円（前年同期営業損失141百万円）、経常損失は153百万円（前年同期経常損失139百万円）、四半期純損失は154百万円（前年同期四半期純損失140百万円）となりました。

なお、当第2四半期累計期間における新薬候補化合物開発状況は以下の通りです。

① 新薬候補化合物開発状況

(イ) ライセンスアウト済パイプライン

プロジェクト名	開発中の新薬（対象疾患）	開発段階	ライセンスアウト先
グラナテック	緑内障治療剤 （緑内障・高眼圧症）	国内上市	興和株式会社
K-134（注）	—	—	興和株式会社
H-1129（WP-1303）	緑内障治療剤 （緑内障）	非臨床試験	のみかもと製薬株式会社

（注）K-134について：ライセンスアウト先の興和株式会社により、閉塞性動脈硬化症以外の適応症への応用を検討されています。

(ロ) 新規開発品

プロジェクト名	開発中の新薬（対象疾患）	開発段階
H-1337	緑内障治療剤（緑内障）	化合物最適化完了
シグナル伝達阻害剤開発プロジェクト	眼科関連 神経系 循環器系 呼吸器系等	基礎研究

② 当期の業績の概況

(イ) 売上高、売上原価

売上高は、ロイヤリティ収入等27百万円を計上しました。なお、興和株式会社による「グラナテック」の国内販売状況は順調に推移しております。また、「グラナテック」のロイヤリティ収入には、平成26年12月分のロイヤリティ収入も含まれております。当社は、販売額に応じたロイヤリティ収入を得る権利を有しておりますが、新薬の販売初月は返品が発生する影響で純売上高が大きく変動することから、ライセンスアウト先における売上高の集計が終了しておらず、当社のロイヤリティ収入を合理的に見込むことが困難であったため、前事業年度においてはロイヤリティ収入を計上していなかったことによるものです。

売上原価はありません。

(ロ) 販売費及び一般管理費、営業損失

a. 研究開発費

研究開発費は眼科用鎮痛剤の導入による支払手数料の増加等により、80百万円（前年同期比70.6%増）となりました。

新規開発品につきましては、「H-1337」の化合物最適化を完了しており、メカニズムの解明と非臨床試験に向けた準備を進めております。シグナル伝達阻害剤開発プロジェクトにつきましては、眼科関連疾患を中心に新薬候補化合物の探索のための研究開発活動を行いました。

なお、当社のパイプラインである「グラナテック（国内の緑内障・高眼圧症を適応とした領域を除く）」、「K-134」及び「H-1129（WP-1303）」の研究開発費は、ライセンスアウト先の資金により賄われており、当社において研究開発費負担は発生しておりません。

b. その他販売費及び一般管理費

その他販売費及び一般管理費は、人件費及び旅費交通費の増加等により、101百万円（前年同期比6.9%増）となりました。

これらにより、営業損失は154百万円（前年同期営業損失141百万円）となりました。

(ハ) 経常損失、四半期純損失

営業外収益に受取利息1,860千円、営業外費用に新株予約権発行費1,415千円を計上したこと等の結果、経常損失は153百万円（前年同期経常損失139百万円）、四半期純損失は154百万円（前年同期四半期純損失140百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末から152百万円減少し、1,983百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が前事業年度末に比べ192百万円減少した一方で、流動資産のその他が25百万円増加したことや売掛金が13百万円増加したこと等によるものです。

なお、総資産に占める流動資産の比率は当第2四半期会計期間末99.2%、前事業年度末98.7%です。

負債は、前事業年度末から1百万円減少し、17百万円となりました。主な要因は、未払金が1百万円減少したこと等によるものです。

純資産は、前事業年度末から151百万円減少し、1,965百万円となりました。主な要因は、四半期純損失の計上により利益剰余金が154百万円減少した一方で、新株予約権の発行により新株予約権が3百万円増加したこと等によるものです。

なお、借入金や社債等の有利子負債残高はありません。

また、負債純資産合計に占める純資産の比率は当第2四半期会計期間末99.1%、前事業年度末99.1%です。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ107百万円増加し、1,275百万円となりました。

なお、当第2四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は次の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は189百万円（前年同期は157百万円の支出）となりました。これは主に税引前四半期純損失153百万円、立替金の増加23百万円及び売上債権の増加13百万円があったこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果得られた資金は295百万円（前年同期は288百万円の収入）となりました。これは主に定期預金の払戻による収入300百万円、貸付けによる支出5百万円があったことによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は1百万円（前年同期は23百万円の収入）となりました。これは、新株予約権の発行による収入1百万円があったこと等によるものです。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度の業績につきましては、平成27年2月12日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,447,268	1,255,078
売掛金	27	13,148
有価証券	620,066	632,316
その他	41,211	67,060
流動資産合計	2,108,574	1,967,604
固定資産		
有形固定資産	6,036	4,979
無形固定資産	232	1,712
投資その他の資産	20,846	8,791
固定資産合計	27,115	15,483
資産合計	2,135,689	1,983,087
負債の部		
流動負債		
未払金	8,228	7,144
未払法人税等	5,860	5,343
その他	5,378	5,458
流動負債合計	19,466	17,945
負債合計	19,466	17,945
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,366,684	2,366,699
資本剰余金	2,356,684	2,356,699
利益剰余金	△2,607,146	△2,761,572
株主資本合計	2,116,222	1,961,827
新株予約権	—	3,315
純資産合計	2,116,222	1,965,142
負債純資産合計	2,135,689	1,983,087

（2）四半期損益計算書

第2四半期累計期間

（単位：千円）

	前第2四半期累計期間 （自平成26年1月1日 至平成26年6月30日）	当第2四半期累計期間 （自平成27年1月1日 至平成27年6月30日）
売上高	—	27,046
売上原価	—	—
売上総利益	—	27,046
販売費及び一般管理費		
研究開発費	47,218	80,564
その他	94,697	101,242
販売費及び一般管理費合計	141,916	181,806
営業損失（△）	△141,916	△154,759
営業外収益		
受取利息	1,521	1,860
有償サンプル代収入	484	—
その他	243	440
営業外収益合計	2,248	2,300
営業外費用		
株式交付費	72	73
新株予約権発行費	—	1,415
為替差損	132	—
その他	—	0
営業外費用合計	205	1,488
経常損失（△）	△139,872	△153,947
税引前四半期純損失（△）	△139,872	△153,947
法人税、住民税及び事業税	478	478
法人税等合計	478	478
四半期純損失（△）	△140,351	△154,425

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△139,872	△153,947
減価償却費	877	1,119
受取利息	△1,521	△1,860
株式交付費	72	73
為替差損益 (△は益)	132	△200
新株予約権発行費	—	1,415
売上債権の増減額 (△は増加)	—	△13,121
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,457	318
前払費用の増減額 (△は増加)	△7,427	1,004
立替金の増減額 (△は増加)	0	△23,486
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△1,662	△1,730
未払金の増減額 (△は減少)	△2,847	△2,750
その他	△1,065	3,096
小計	△157,771	△190,069
利息の受取額	1,053	1,949
法人税等の支払額	△1,056	△932
営業活動によるキャッシュ・フロー	△157,774	△189,052
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	△10,247	—
貸付けによる支出	—	△5,000
有形固定資産の取得による支出	△731	—
定期預金の預入による支出	△300,000	—
定期預金の払戻による収入	600,000	300,000
差入保証金の差入による支出	△120	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	288,902	295,000
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の発行による収入	—	1,900
新株予約権の行使による株式の発行による収入	23,702	—
株式の発行による支出	—	△43
財務活動によるキャッシュ・フロー	23,702	1,856
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	154,807	107,814
現金及び現金同等物の期首残高	1,067,316	1,167,335
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,222,123	1,275,149

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間（自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日）

当社は、創薬事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期累計期間（自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日）

当社は、創薬事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。